

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム・榎内

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200202		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム・榎内		
所在地	岩手県宮古市田老字西向山119-16		
自己評価作成日	平成30年9月7日	評価結果市町村受理日	平成30年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390200202-00&amp;Pr_fCd=03&amp;Ver_sionCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390200202-00&amp;Pr_fCd=03&amp;Ver_sionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年9月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がゆったりと過ごすことの出来る、空間や雰囲気作り又笑いが起こるような声掛けを行っている。  
ご自宅に行き、有意義な時間を過ごして頂いたり、利用者様ご本人様が大好きな動物などをペットショップに見に行ったり、カラオケに行くなど頻度的には多いとは言えないが外に出て地域に出て楽しんで頂くというを行っている。そして利用者様主体で、野菜を育て職員とともに調理を行うなどして在宅の際に行ってきた事や好きなこともできるような関わりを行っている。今後はそのような利用者様の楽しみが増えるような関わり方やケアが必要だと感じているとともに私達職員の課題でもある。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道45号線の榎内バス停から少し入った海岸沿いの高台で、かつてのリゾート地だけあって、三陸海岸を一望する風光明媚な場所に立地している。理念とする「ひとりの心を見つめるケア」の下、職員は、利用者一人一人に寄り添って希望を汲み取り、ペットショップでの犬猫との対面、自宅で家族と懇談、昼食を兼ねた苗の買い出しなど、管理者と協議して取りまとめた外出行動計画書に沿って個別に出掛けている。また、利用者は、これまで携わってきた家事等、出来ることを日々の生活の中で役割としている。このように、管理者を中心に職員が一体となって工夫を凝らしながら理念を実践し、職員と利用者により理解しあえる関係づくりと、目指すケアの向上に努める姿勢は大いに評価される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム・椋内

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・利用者が安心して過ごせる環境に努めます。 ・心身の状況に合わせた援助を職員間で周知、サービスを提供している。	法人の理念・姿勢として「ひとりの心を見つめるケア」を定めている。理念は、毎日の朝夕の申し送りや職員会議を通して共有している他、常に確認できるようキッチン上の見やすい場所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・田老第一中学校の吹奏楽部の生徒様による演奏会を開催、演奏会後は利用者手作りのおやつで生徒様と交流を図りました。	地元の中学校吹奏楽部、地域ボランティアの合唱、地元高校生の傾聴ボランティア等が来訪し、地元の小中学校から文化祭に招待をされるなど、学校を始めとする社会資源を通じ地域との繋がりを目指している。	地元自治会の回覧板が回ってくることを当面の目標に、地域と関わっていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて利用者様の日常生活を伝え認知症でない方への理解や質問に回答しながら地域の方へ伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、自己報告、月間行事内容活動報告をしている。日常の様子などわかりやすいように写真掲載している。 質問、ご意見、アドバイス等話しやすい雰囲気づくりを目指している。	市介護保険課、民生児童委員、ワークステーション、利用者家族、地域包括支援センター、教育機関等を委員とし、定期的開催している。委員の提案で会議資料に法人の理念や介護の基本方針を表記して職員間で共有した。会議の欠席者を少なくすることを課題としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修会の案内をFAXで頂いている。 運営推進会議に毎回出席して頂いている。 身近な地域情報、ご意見を頂いている。	市の担当者は、運営推進会議の委員になっていることもあり、介護計画の作成にアドバイスをしてもらうなど、話しやすい関係ができており、普段から、行事や懇親会などの情報の提供と助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の人権を尊重する。 「拘束をしない介護」の徹底を目的としている。	法人内の二つのグループホーム共同で身体拘束廃止に関する委員会を3か月ごとに開催し、様々な事例を検討して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は、夜間のみで、日中は施錠していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックなど少しの言葉遣い等など3ヶ月に一度2つの施設で話し合い情報の共有又議事録を通じたり会議での情報の周知を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束委員会を中心に会議を開き、職員会議で内容を周知全職員が身体拘束防止に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書の内容を一通り読んで説明、御納得頂いてから契約の署名をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の利用者御家族様へのお手紙で近況を伝えたりご意見、ご要望があれば話せるよう言葉を添えている。 面会時にも近況情報、ご意見頂いている。	所内に意見箱を設置しているが、これまで実績はない。担当者は、毎月写真とともに様子を記した「柵内の風」と意見要望を促す手紙を家族に送っている。昼食や入浴、レクリエーションの際に、利用者の意見要望を聴くよう努め、「野菜作りをしたい」との要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間での意見があれば話を聞いて急ぎであれば申し送りで伝えたり毎月の職員会議で提案している。	統括部の個別面談の機会に職員の悩みや楽しみを聞く場があり、また、フロアリーダーは、日常業務中に世間話や愚痴を受け止め、職員の意見要望を把握するように努めている。1日3回の温度と湿度の記録は、アラームを設置して記録するなど、職員のアイデアを具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員間のコミュニケーションを図りここが働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	解らないことはその都度質問をしやすい環境づくりをしている。 職員会議で毎月内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	カフェの案内を頂いたりしている。 運営推進会議で近隣のグループホームにも案内を出して出席いただき先方の運営にも参加させて頂いている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全体が理念を踏まえてのサービスの提供をしているとは言えず、定期的に理念や方向性の確認を行っていく必要がある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて御家族様にお会いする際には主訴となる部分と対象となる利用者様に対して、事業所でケアができるか又、現在の気持ちや状況を話を傾聴することで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在何に困っているのか？どのような生活をしていきたいのかを傾聴又具体的に聴くことや生活歴・環境やご本人様の生活を形成してきた背景の部分などいろいろな角度で見るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事、掃除等行い楽しい一日になる要に心懸けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一度のお手紙に通院報告、日常の利用者様のお姿を写真に撮り(イベント)など送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様から行ってみたい 場所等を聞きだしドライブ、外食など行っている。	昔通ったスナックやカラオケを利用する方や、自宅近くの美容室で白髪染やパーマをかける方など、これまでの生活の継続を大切にしている。職員は、積極的に利用者の外出計画をつくり、できるだけ希望に沿って支援している。利用者に手紙や年賀状を出すよう働きかけ、馴染みの人との繋がりを継続できる支援に努めたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり孤立しないよう利用者様みなさんでレクリエーションをしたり声掛けし昔話を聞いたりし、会話している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が亡くなった後も地域であった際には挨拶又世間話をしたり、サービスの終了とは関係なく、関わりを持たせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望を叶えてあげる。家を見に行ったり、外食、ご本人様が好きな動物などを見に行ったり、できる限りかなえてあげたい。	利用者の個性を大切に、これまでやっていたこと、できることを日々の表情から汲み取り、本人の意向に沿った生きがいづくりや意欲に繋がる働きかけをしている。日常生活に関わる掃除、洗濯ものたたみ、調理補助等、出来ることをやっていたい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	時代背景や生活歴又家族からの在宅時の情報などを聞いたりすることで、ご本人様の人間性を出来る限り知りサービスの提供をさせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の負担にならないような作業を一人一人把握し支援ができるように職員が努力する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当がその利用者様からやりたいことなどを聞き出している。サービス内容を見つけ出し介護計画を作成している。	介護計画は、月1回の居室担当者によるモニタリングと、様々な角度から収集した関係者の情報をもとにアセスメントを行い、カンファレンス会議で話し合い、3ヵ月ごとに見直している。訪問看護ステーションの看護師から、排便コントロール、爪処理等に関する助言指導を受け、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化など常に観察し業務日誌や申し送りでの情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員各々、一人一人が考え方や利用者様への見方も様々で視点も違うので、できる限り意見や考えを出して頂きながらサービスの提供へつなげる心がけを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	宮古市の社会資源はある程度は理解して業務は行っているが、実際に地域と関わりを持ちながら支援すると言うことの難しさを痛感している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様がずっと付き合ってきた医師との関係性の部分でも継続できるように意向を聞きながら通院の対応をさせて頂いている。	利用者や家族の希望する入居前からのかかりつけ医となっているが、入居後に看取りを想定し協力病院に変更した利用者もいる。緊急の場合は、事業所の協力病院が対応している。週2回訪れる訪問看護ステーションの看護師と協力し、適正な健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護の方に来て頂きながら利用者様の身体にできた、傷やアザ又 排便の状態、ケアの仕方のアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、利用者様の顔を見に行ったりナースステーション又地域医療連携室から除法を頂きながら御家族様や医療機関との関係をつくるように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様と電話での連絡、又来所された際には情報を伝えたり今後の方針(詳しい検査をするか、看取りの際にはどこで過ごしたいのか)を聞き職員で周知するようにしている)	家族や利用者に対し、入居時に重度化に対する指針を説明し、フローチャートを用いて丁寧に説明している。看取りに際しては、主治医の意見に基づき訪問診療の医師と連携しチームで取り組む支援体制が出来ており、随時意思の確認をしながら取り組むことになっている。過去に1人の看取りを経験している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に職員会議内での研修などを重ねることで知識の構築を図っている。全職員が実際に動けるように今後も経験を重たり、研修を行う必要性を強く感じております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。その中で消防署の方や地域の方との訓練を行っている。訓練の結果は悪くない状態だが実際災害がおこった際に対応できる力をつけるためには今後も地域の方を交えた訓練は必要不可欠である。	夜間想定を含め年2回の避難訓練を消防署員の協力を得て実施している。市の情報端末を設置し緊急情報入手の他、特別災害ハザードマップの閲覧と避難場所の確認を行っている。利用者居室の入り口の「名札ホルダー」は、災害時の利用者避難の確認のためのものである。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限り利用者様が気持ちの良い声掛けを目指しながら業務にあたっている。気になる声掛けがあった際には対象となる委員会又は会議などで話し合う機会を設けることで改善を図っている。	人生の先輩である利用者は、誇りを傷つけない「さん」づけで呼ぶようにしている。トイレでの介助の際には、プライバシー保護のためトイレのドアを開けたままにしないことを徹底している。利用者の様子をお知らせする「柵内の風」等への利用者の写真掲載は、予め家族や利用者の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が気持ちを言える環境や、雰囲気づくりを職員が心がけている。自己決定を促すことができる部分と出来ない部分が大きく分かれているような気がする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者様のペースに合わせた（寝たい時に寝る、休むなど）ケアを行っている。 ご本人様が持っている、要望に応えるためには地域との関わりという部分がもっと必要となってくる。今後の課題でもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が着たい服や、持ち歩きたいバッグなどを職員が理解する事又個人の尊重を忘れないように業務を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事量が減ってきた利用者様に対して、食事の工夫や利用者様の楽しみになるように職員全体で考え実行している。	献立の作成や調理は、職員が交代で行っている。担当する職員は、利用者の食欲をそそる献立を工夫している。調理、盛りつけ、配膳、後片付けは、利用者も一緒に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲み、果物を添え、季節の食事を取り入れ、利用者と職員が楽しんで食事を作り、いただく雰囲気を作り出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や体重の変化にも意識しながら、職員間の情報の共有を図りお茶だけではなく、色々な種類の飲み物ジュース、牛乳、乳酸菌がはいった飲み物の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、ご自身で出来る方又出来ない方には見守りや介助を行っている。拒否が見られた際には、時間をずらして口腔ケアを行うなどして対応を図り必要時歯科通院を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の一人一人時間ごとにトイレへの声掛け、付添を行いきる部分は見守りしている。おむつ等の種類なども職員同士、話を申し送りなどに話をし検討し、変更も行っている。	利用者ごとに排泄パターンを把握し、職員が、さり気なくトイレ誘導をすることで、全員トイレでの排泄が出来ている。リハビリパンツの使用状況を朝夕の申し送りで確認しながら、利用者の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、腸を活発にする植物やブルーベリーなどを使用したり、日中の水分補給の他にも、夜間帯に水分補給を促したりして対応し主治医への相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様一人一人に合わせた入浴サービスを提供できるように心がけている。入浴されたくない時などは、時間をずらすなどして入浴して頂いている。	週2回を基本としているが、希望により3回の入浴もある。風呂のお湯は、その都度交換している。入浴の際は、入浴剤を使い昔話や歌を歌うなど、楽しいひと時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人に合わせ、日中昼寝の時間等、支援を行っている。夕食後には、ゆったりとした時間を提供できるよう心掛け、眠くなってきたら就寝介助を始めるように業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時、内服薬の変更があった際には、申し送りの時に報告しあい、業務日誌、通院連絡記入書に記録している。飲み始めて体調等、変化があった際には、主治医や、かかりつけの薬局に連絡を取るなど対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限りは、利用者様に家事など参加をして頂き、見守りをしながらできる範囲内での、お手伝いをして頂いている。外出やレクリエーション、月々の行事等で楽しみ、気分転換ができるように、努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、利用者様一人一人の要望に対応できるように心懸けている。(外出、ドライブ、カラオケ、外食、野菜を育てるなど)施設内の周りの散歩など行う事で利用者様の表情や精神的な部分に関してプラスの傾向が見られている。	できるだけ外出機会を多くするため、担当者は、利用者個々の行動活動計画を取りまとめ積極的な外出支援に取り組んでいる。季節ごとの紅葉狩り、花見等のドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様がお金を持っていないと不安である気持ちの部分に関して職員全体で理解をしている。 一緒に出掛けるなど、買い物に同行する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様からの手紙を読んでいただいたり、利用者様が、御家族様と話をされる時は、電話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度等、常に一定に保つように心がけている。季節ごと、月ごとに行事やお手伝いをしている利用者様の写真を貼りカレンダーや、暦を貼ることで季節を感じられるよう努めている。職員だけでなく利用者様も掃除をお手伝いしてくれている。	木のぬくもりのある、高い天窓と南向きの窓から差し込む柔らかい光、広々と配置されたロビー、和室、仕切りのない事務室など、開放感溢れる空間となっている。湿度や温度の調整も行き届いた居心地のよい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士過ごせるように配置や席替えを行っている。 一人になられた時は、自室で安らいで頂き、職員間で情報を共有して見守り、声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が入所以前、ご家庭で飾っておられた写真など、ご自身の居室に置かれたり、仏壇など思い入れがあるものを置かれたり居心地良く過ごして頂けるように配慮している。	室内は、パネルヒーターで温度管理され、ベッド、箆笥、ハンガーが設置されている。車いす、手押し車、ラジオ、家族写真、仏壇などが持ち込まれ、日当たりのよい居心地よい居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様自身で動かして頂き、できることわかる事は、ご自身で行って頂き、分からない事、出来ないことは、プライドや自身を損なわないように心懸けて、声掛け、お手伝いをさせていただいている。		